

「カカト危機」(一幕)

坂口瑞穂

(登場人物)

女1

女2

道。

女が一人。

片方の靴を持って見ている。

女1
∴。

女2が通りかかる。

女2 やられた？

女1 (うなずいて) やられました。

女2 その排水溝の網でしょ？

女1 (うなずく)

女2 これまで何人もやられてるのよ。女の人が。ヒール。

女1 そうなんですネ。

女2 みんな泣かされて。

女1 まいったな。どうしよう∴。

女2 仕事。これから？

女1 はい。人に会う約束が。近くに靴屋さんありますか？

女2 あるけど、まだやってないでしょう。

女1 そうか∴。

女2 いくつ？ サイズ。

女1 え？

女2 足の。

女1 23.5です。

女2 私のじゃあね。22.5。

女1 小さいんですね。
女2 小学生の時から変わってない。
女1 へえ。
女2 お家は遠いの？
女1 はい。
女2 困ったね。
女1 とりあえずこのまま行こうかな。
女2 足、挫かないように気をつけて。
女1 それより人の目が。
女2 人の目？
女1 ヒョコヒョコ歩くとおかしいですよね。
女2 まあ、そうなるね。高さが違うから。
女1 恥ずかしいな。
女2 仕方がない。
女1 いかにもドジな女。
女2 見慣れてる。
女1 見慣れてる？
女2 大して珍しくもない。
女1 ヒョコヒョコが？
女2 だって毎日、この道、通る女の人、4、5人はやられてるから。
女1 そんなに？
女2 この網に替えられたばかりのときはもっとひどかった。通る女(ひと)、通る女(ひと)、次々。鳥モチにかかったみたいに、あ、あ、あ、あ、って、いろんな、あ、が繫(つな)がって、音階みたいになってたから。
女1 あ、あ、あ、あ？
女2 そう。
女1 それって欠陥品じゃないですか？ 排水溝の網？
女2 ね。
女1 取り替えるべきです。
女2 結局、男社会ってこと。自分たちの靴は挟まらないから、どうでもいいの。大雨が降った時にこの方が水抜けがいいとか、運動靴を履けばいいじゃないかとか…
女1 ひどい。
女2 もっとひどいのはね、靴屋が儲かって景気が良くなるとか、しょうもないことを。許せない。
女2 もっと許せないのはね…
女1 何ですか？

女2 女は、この道を通らなきゃいいじゃないかって。

女1 信じられない。明らかに差別じゃないですか。

女2 そうでしょ？

女1 この国で、女性を通っちゃいけない道があるなんて…あり得ない。

女2 でも実際に以前(まえ)より少なくなつた。ここ通る女の人。一度やられちゃうと、どうしてもね。少し遠回りになつてもこの道を避ける。だからあなたのように初めてこの道を通る人が犠牲になる。

女1 それでいいんですか？

女2 役所にも何度も言ったんだけどね。

女1 私、悔しい。普段、使わない道だし、二度と通ることもないかもしれないけど。だけど、犠牲者は私を最後にしたい。

女2 立派な志だけど、ここでずっと見張っているわけにもいかないでしょ？ これからお仕事もあるんでしょ？

女1 キャンセルします。

女2 キャンセル？

女1、携帯を出す。

女1 (かけて)…もしもし…おはようございます…実は…混雑？…そうですか…分かりました…要件をメールします…。

女2 …

女1、メールを打つ。

女2 本当にお仕事キャンセルする気？

女1 (メールを打ちながら) はい。今、課長に電話したんですけど、満員電車の中だから話せないって。だからメールで…

女2 …

女1 (メールを打ちながら)…この通りって名前、何ですか？

女2 「カカト殺し」。

女1 カカトゴロシ？

女2 いつの間にかそう呼ばれるように。

女1 正式な名前じゃないですよね？

女2 正式な名前？ あるのかな？

女1 まあ、いいです。(メールを打ちながら)

女2 私、そろそろ…

女1 (メールを打ちながら) え?
女2 仕事が…
女1 (メールを打ちながら) キャンセルしてください。
女2 え?
女1 (メールを打ちながら) 私もキャンセルするんですから。
女2 あなたはそうだけ…
女1 よし。送りました。さあ、どうしましょう?
女2 どうしましょう? って、どうするの?
女1 とりあえず、ここでどちらかが注意喚起をして、誰も犠牲にならないように見張る。
女2 私、遅刻しちゃう。
女1 休んでください。
女2 そんな…無理。
女1 出来ます。
女2 出来ない。
女1 どうして?
女2 どうしても。
女1 事情を説明すれば分かってもらえるんじゃないですか?
女2 何で?
女1 だってこれ以上、犠牲者を増やすわけにはいかないじゃないですか。こんな理不尽な仕打ちを黙って見過ごすんですか? 私は出来ない。
女2 あなたはね。
女1 あなたは平気なんですか?
女2 平気じゃないけど…
女1 責める気はないですが、そもそも、あなたが、もっと早く立ちあがっていれば、少なくとも私は犠牲にならずに済んだんです。あなたはずっと以前(まえ)から、この通称「カカト殺し」の存在をご存知だったんですからね。違いますか?
女2 そうだけど…
女1 いいんです。責めているわけではないんです。私もあなたと出会わなかったら、ただ泣き寝入りして、ヒヨコヒヨコこの場から立ち去ったでしょうからね。でも、あなたと私、二人だったら戦えます。最後までやり遂げましょう。
女2 最後までって…
女1 排水溝の網を、かかとか挟まらないものに取り換えてもらうまでです。
女2 そんなのいつまでかかるか分かりません。
女1 大丈夫。はじめの一步さえ踏み出せばすぐです。ちょっと失礼…。

女1、携帯を出す。

女1 (携帯電話に) はい。…そうですか、電車わざわざ降りて…すみません。…はい。…いえ、ここを離れるわけにはいかないんです…いいえ…誰かがやらないといかないことなので…

女2、行こうとする。

女1、腕をとる。

女2、どうしても行こうとする。

女1 (携帯電話に) いえ、もう一人の同志と協力して…

女2 私、行かなきゃいけない…

女1 (携帯電話に) 駄目なんです、それじゃあ。…コトシロさんとか行けるんじゃないんですか?…そんなことってどういう意味ですか?…だって困っている女性が続出しているんです。今までも、これからも…

女2 離して。

女1 それは脅しですか?…(女2)クビでもいいのかって…

女2 嫌。

女1 (携帯電話に) だってそうじゃないですか。そう言われたら誰だって脅しと取りますよ…わがまま?…わがまま?…自分勝手?…

女2 そうよ。

女1 (携帯電話に) 信じられない。私が自分のためだけにキャンセルするとおっしゃってるんですか?…自分だけのためだったら、とくにこんなところサラバしてますよ。だってそうでしょ? 行こうと思ったら裸足でだって行きますよ。仕事なんですもん。

女2 私も仕事なの。

女1 (携帯電話に) …は?…何ておっしゃいました?

女2 仕事。

女1 (携帯電話に) 私はこれまでも責任もって仕事してきましたよね? これまで資料も期限通りに提出してますよね…一度でもありました? 私が遅れたことが…でしょう?…だから、今回も私に行かせるんでしょう?…どういう意味ですか? 裏切られたって…

女2 お願い離して…

女1 (携帯電話に) ほっとく訳にはいかないんです。…ほんと、あなたわからず屋ですね。

女2 あなたが…

女1 (携帯電話に) これまで誰もが他の誰かがやってくれるだろうって、この問題をほ

ったらかしにしてきたんです。だからいつまでたっても現状が変わらないんじゃないですか？…今、私たちが立ち止まり、この問題に立ち向かわなきゃいけないんです。…私たちじゃなきゃいけないんです。（女1に）あなたと…

女2 （首を横に振り）嫌。嫌。

女1 （携帯電話に）そうです…そうです…はい。よろしく願います。…失礼します。

女2 （携帯電話を切る）…よし。こっちは片がついた。

女2 私を会社に行かせて。

女1 あなたも早く電話して。会社に。

女2 何て？

女1 大丈夫。私たちは正しいことをしてるんだから。ね。きっと分かってくれる。

女2 …

女1 罪を償うチャンスじゃない。

女2 罪？

女1 罪よ。あなたはこの現状を知りながら、多くの被害女性を見殺しにしてきたんだからね。

女2 …

女1 大丈夫。今からでもやり直せる。私がついてる。安心して。

女2 …

女1 まず、私は役所に電話するから。あなたは会社に。（携帯を出しながら）もし誰か、女の人が通りかかったらお互いに声掛けを忘れずに。

女2 …

女1 （携帯電話に）もしもし。道のこと聞きたいことがあるんです…。

おしまい。